

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 129人

② 数学 129人

③ 理科 129人

5 留意事項

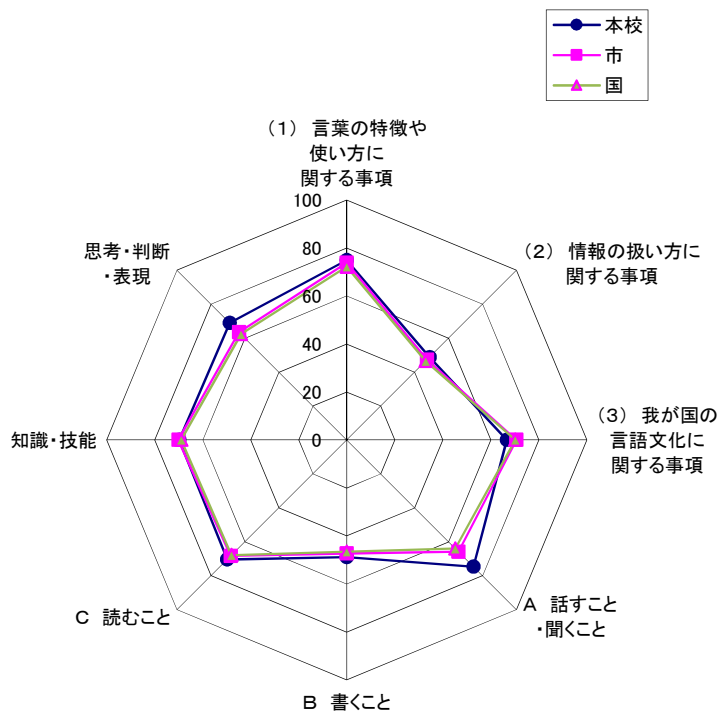
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立一条中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	74.9	73.8	72.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	48.8	47.3	46.5
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	66.7	70.7	70.2
	A 話すこと・聞くこと	74.7	65.9	63.9
	B 書くこと	48.8	47.3	46.5
	C 読むこと	70.5	68.3	67.9
観点	知識・技能	69.8	70.2	69.0
	思考・判断・表現	69.0	63.6	62.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

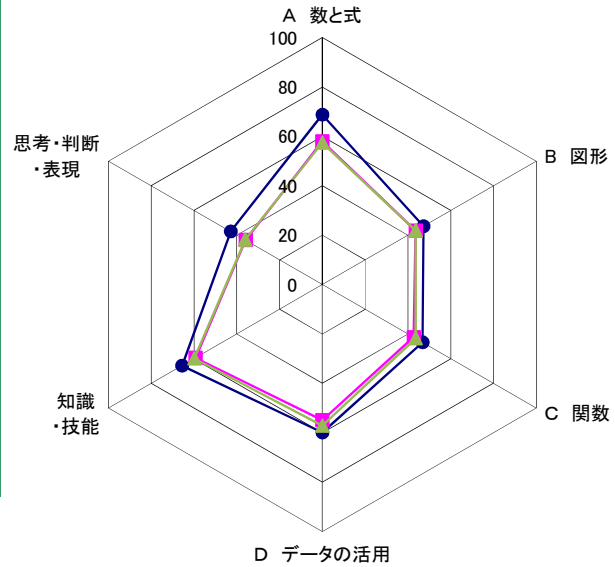
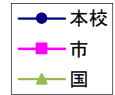
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点	
		○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○領域としての正答率70%を超えており、全国・県の平均を上回った。「自分の考えが分かりやすく伝えるように表現を工夫して話す」問題の正答率が、全国・県の平均を上回った。 ●「文脈に即して漢字を正しく書く」と「言葉の意味として適切なものを選択する」問題の正答率が、全国・県の平均をやや下回った。	・漢字を覚えるだけでなく、学習した漢字を文章の中で正しく使えるよう指導する。言葉についても、生徒がさまざまな表現に触れ、語彙を増やし、文章の理解や豊かな表現につながるよう指導する。	
(2) 情報の扱い方に関する事項	○領域としての正答率が全国・県の平均をやや上回っている。 ●全国・県の平均を超えてはいるものの、正答率が50%未満であることから課題があると考えられる。	・今回の問題のように、ウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きに加えるというような情報活用の仕方については、今後、より必要になってくるので、活動として取り組む機会を増やして指導する。	
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○領域としては正答率が60%を越えている。 ●正答率が全国・県の平均を下回っている。行書に関するすべての問題について、全国・県の平均を下回っている。	・行書の特徴や、行書の読みやすい書き方、行書に調和した仮名の書き方など、書写の授業を通して、生徒が我が国の言語文化について理解を深められるよう指導する。	
A 話すこと・聞くこと	○領域として正答率70%を超えており、全国・県の平均を大きく上回った。 ●「自分の考えが分かりやすく伝えるように表現を工夫して話す」問題の無回答率が全国・県の平均をやや上回った。	・授業でのスピーチや対話活動を設定し、話し手としては聞き手を意識し表現の工夫を行うことや、自分の考えが分かりやすく伝えるように表現を工夫して話すことを意識させたい。また、聞き手としては論理の展開などに注意して聞くことを意識させ、充実した言語活動になるよう指導する。	
B 書くこと	○領域としては正答率が全国・県の平均をやや上回っている。 ●正答率が50%未満であることから課題があると考えられる。	・根拠を明確にして書くことは、自分の考えが伝わる、わかりやすい文章にするための基本的な事項であるので、自分の意見を述べる文章を書く活動の中で繰り返し指導していく。また、根拠の説得力について、考えさせたい。	
C 読むこと	○領域として正答率が70%を超えており、全国・県の平均を上回った。 ●「場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する」問題の無回答率が県の平均をやや上回った。	・説明的文章や文学的文章など、多くの文章に触れるよう促し、さまざまな見方・考え方を身につけられるよう指導する。特に、文学的文章については、描写をもとに場面の展開や心情の変化を捉え、内容を理解できるよう指導する。	

宇都宮市立〇〇〇中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	68.7	58.0	57.4
	B 図形	47.3	43.6	43.6
	C 関数	46.8	42.7	43.6
	D データの活用	59.9	54.9	57.1
観点	知識・技能	65.6	59.3	59.9
	思考・判断・表現	42.9	35.9	36.2
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

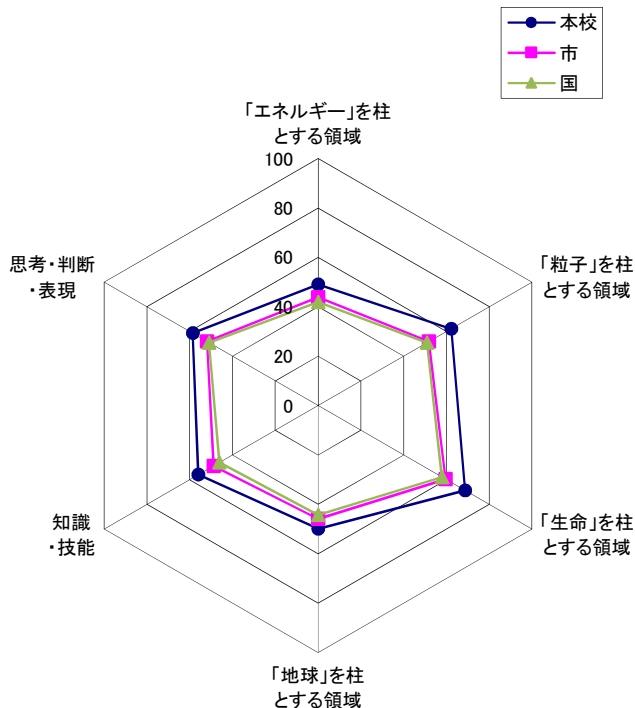
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<ul style="list-style-type: none"> ○領域としては正答率は68%を越えていて、市や国の平均を10%以上上回っている。 ○特に素因数分解や簡単な連立方程式の計算は正答率が非常に高くなっている。 ●単純な計算はできるが、なぜそうなるのかといった事象を説明することに対する正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も授業の最初に復習を兼ねた問題への取り組みや小テストを継続し、基礎的な計算技能の定着は続ける。 ・授業の中で友達に説明する場面を設けるなどし、計算が成り立つ理由なども説明できる力を身に付けさせたい。
B 図形	<ul style="list-style-type: none"> ○正答率は50%に達していないが、市や国の平均は上回ることができた。 ○三角形の合同条件をしっかりと覚えている生徒が多い。 ●証明のような、その事柄が成り立つ理由を説明することができない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数と式と同様に、説明することが苦手と感じている生徒が多い。基本的な証明の問題を繰り返し解くことで自信を持たせ、短い文章からでいいので自分の言葉で説明しようとする意欲を育てていきたい。
C 関数	<ul style="list-style-type: none"> ○正答率は50%に達していないが、市や国の平均は上回ることができた。 ○グラフから座標を読み解く力は比較的高い。 ●変化の割合の意味を正確に理解し、求めることができていない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数分野では変化の割合は毎年関わってくる内容なので、求め方を覚えさせるだけでなく、その値が示しているものが何なのかも考えさせていきたい。 ・各学年で新しく学習する内容のときに、既習事項も合わせた問題演習などを行い、学習内容を関連付けていきたい。
D データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ○正答率は60%近くあり、市や国の平均を上回ることができた。 ○ヒストグラムや箱ひげ図といったものから傾向を読み取る問題の正答率が比較的高い。 ●「多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している」ことに関する問題の正答率が市や国の平均を下回ってしまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・代表値の求め方といった計算技能だけでなく、ヒストグラムや箱ひげ図といった図から傾向を読み取る力をさらに身に付けさせたい。 ・ヒストグラムなどから情報を読み取る力、特徴を説明する力の両方を身に付けさせるために、簡単な問題から少しずつ説明をする場面を作る。授業中に生徒同士で説明し合わせたり、記述したりする練習も、教科書にある問題にプラスして取り入れる。

宇都宮市立〇〇〇中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	49.0	43.8	41.9
	「粒子」を柱とする領域	62.2	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	68.7	59.6	57.9
	「地球」を柱とする領域	49.9	45.9	44.3
観点	知識・技能	56.0	48.8	46.1
	思考・判断・表現	58.6	51.9	51.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>領域としては市・県・国の平均を上回っているが、正答率が50%未満であることから課題があると考えられる。</p> <p>○ 実験の条件を変える問題がよくできている。予想・実験・考察の流れで考えを深める機会を設定してきた成果であると考えられる。</p> <p>● 力学の知識・技能の問題において、選択式でありながら著しく正答率が低いことから、力学の基礎知識の定着に課題があると見られる。</p>	<p>・今後も、自分の考えを持って課題に取り組ませる指導を継続し、知識を活用して深く考える力や他の事象や条件についても考えを発展させる力を身に付けさせる。</p> <p>・基礎知識の習得が短絡的な暗記になってしまうことがないよう、事象に対して関心を持たせ、課題解決的な学習を通して本質的な理解を伴った知識の定着を図る。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>領域として60%を超えており、市・県・国の平均を大きく上回った。</p> <p>○ 知識・技能の問題がよくできている。基礎知識を定着させるために、視覚的に理解できるような授業を行ってきた成果であると考えられる。</p> <p>● 「エネルギー」領域と関連付けた問題で正答率が低かったことから、他領域と結びつけながら知識を活用することに課題があると見られる。</p>	<p>・今後も、目に見えない粒子をイメージできるように視覚的理解を促す指導を継続し、化学反応を粒子の視点から考えることができる力を身に付けさせる。</p> <p>・授業で学んだ知識が、その授業の中や領域内だけの限定されたものではなく、実際の身のまわりで見られる事象では様々な知識が関連していることを理解させるために、領域を超えて考えさせるような課題を提示する。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>領域として正答率70%近くまで達しており、市・県・国の平均を大きく上回った。</p> <p>○ 動物のつくりや特徴に関する問題がよくできている。動物に対する興味関心を高める導入を行った成果であると考えられる。</p> <p>○ いずれも思考・判断・表現の問題であったが、すべて正答率が50%を超え、最も高いもので80%を超えた。習得した知識を活用して、考えを深めさせる課題に取り組んできた成果であると考えられる。</p>	<p>・生徒のもつ興味関心を刺激し、もっと知りたいと思わせるような導入の工夫を継続し、多様な生物についての膨大な知識が系統的に整理できるように指導を工夫する。</p> <p>・生命領域の授業が、一方向の講義型に終始してしまわないように、生徒が主体的に学ぶことができる課題を設定し、生徒の気づきから知識を習得させたい。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>領域としては市・県・国の平均を上回っているが、正答率が50%未満であることから課題があると考えられる。</p> <p>○ 地層に関する問題については、正答率は低いながらも県・国の平均を大きく上回った。時間的・空間的な見方をはたらかせられている生徒が多いと考えられる。</p> <p>● 気象に関する問題の正答率が低いことから、気象の基礎知識の定着が不十分であるとともに、知識を関連付けて考えることに課題があると見られる。</p>	<p>・地球領域は時間的・空間的なスケールが大きいため、生徒はイメージをもつことができず、理解が十分でないことが多い。視覚的に理解を補助するような資料を提示したり、理解しやすい例えに置き換えるなど、指導を工夫する。</p>

宇都宮市立一条中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○土曜日や日曜日などにどれくらい勉強するかの質問に対して、県平均、全国平均を上回る結果となった。週末は、勉強に積極的に励んでいる生徒が多いという結果となった。

●「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」の質問に対して、4時間以上と答えた割合は15.4%で県平均を上回る結果となった。動画視聴は、平均を下回っているため、ゲームに没頭してしまう生徒がいることが伺われる。また、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」という質問に対し、「当てはまる」と答えた生徒は、35.4%と県平均を下回った。さらに、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問や「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問でも、「当てはまる」と答えた生徒の割合が県平均を下回っていた。このことから、平日の帰宅後の家庭での過ごし方や学習など、自ら計画を立てて実行することの重要性を再度確認し、実践できる力を身につけさせたい。

○「自分に良いところはありますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に対して肯定的割合が高い結果であった。特に、先生との関係では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒が93.8%と高い値となった。日頃から生徒たちと積極的にコミュニケーションをとり、気軽に相談できるなどお互い信頼し合える関係作りができていく傾向にあると考えられるので、今後も継続して生徒理解に努め、悩み解消につなげていきたい。

●「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」という質問に対し、「当てはまる」と答えた生徒の割合が県平均を下回った。全体では、与えられた課題に対し、調べたり、まとめたりする力があり、発表力もある生徒が多い。話し合い活動の機会が減っていることも要因の一つと考えられるが、今後、学校行事や発表会の機会も増えるので、生徒達がより学級の一員として存在価値があると感じるような学級経営を目指し、声かけをしていきたい。

●「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対し、「当てはまる」と回答した生徒は、全国平均は上回っているものの、県平均をやや下回っている。進路指導が本格化してくる時期に入るので、進学などの選択が将来につながるような見通しを立てた指導を心がけていきたい。

○「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問に対して、肯定割合は96.9%と県及び全国を上回る結果であった。ICT機器をどの程度使っているかの問いに対しても、県平均を上回っていた。GIGAスクール構想により、タブレットが貸与され、家庭環境差なくICTを活用した学びの機会が多く持たれた成果であると考えられる。今後も様々な場面でICTを有効活用した指導をしていくと同時に、情報モラルについても引き続き考えさせていきたい。

宇都宮市立〇〇〇中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的、対話的で深い学びを実現するための授業改善を図る。	・伝え合う力の育成に向けての学び合いの場の設定と、多様な思考や表現を生み出す学習活動の工夫をする。	<p>・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という問いについて、肯定回答率が87.7%と、県、国に対して大きく上回る。</p> <p>・「友達と協力するのは楽しいと思いますか」との問いに対する肯定回答率は、95.4%と、極めて高い。</p> <p>・「1.2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」という問いへの肯定回答率は、75.4%と、県より8.8ポイント、全国より12.1ポイント高い。</p> <p>・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の問いには、肯定回答率が85.4%と、県や全国より高いポイントを示している。</p> <p>・「自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを作り出す活動を行いましたか」の問いには、肯定回答率が78.5%と、県より5.4ポイント、全国より11.3ポイント高い。</p> <p>・「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という問いには、肯定回答率が83.1%と、県や全国より高い数値を示している。</p> <p>・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」との問いには、肯定回答率が90.7%と、とても高く、県より9.9、全国より18.6ポイント高い。</p> <p>本学年の生徒たちは、日頃より話し合ったり協力したりする活動を楽しんでおり、その活動の中で自分の考えをわかりやすく伝えようとする工夫をしている。また、自分とは違う意見も好意的に受け取り、さらに考えを広めたり深めたりすることで、自らの課題もより良いものになっている。</p>

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<p>学力調査の結果は県、全国の平均より上回り、良好な結果であり、基本的な学力が身につけていると考えられる。</p> <p>質問紙の中の「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の問いへの肯定回答率が、全国より上回るものの、県の平均よりわずかに下回った。</p> <p>学力の定着は十分に見られるが、身に付けた能力を生かしているという実感が伴わないと考えられる。</p>	○学習内容の応用と確認	<p>○授業の中で、これまでに身に付けた内容がどこに生かされているのか、意識的に示すことで、学習内容のつながりや積み重ねの大切さを実感できると考えられる。</p> <p>○これまで継続してきた家庭学習の中で、授業で重要とされる内容を使って学習することを推奨する。</p>